

11月25日、骨髓バンク推進全国大会2001が開催されました

さる11月25日、骨髓バンク推進全国大会2001「10周年記念のつどい」が、全国からおよそ400名、内ドナー150名、患者70名の方にお集まりいただき、東京大学安田講堂で開催されました。

例年、全国大会は日本造血細胞移植学会にあわせて開催されていますが、今年は学会開催地が北海道・札幌であり、参加者の旅費負担増の問題、さらに10周年記念大会であるため学会とは別に東京にて開催することになったものです。

大会は二部構成で、まず第一部は全国大会式典として財団法人骨髓移植推進財団高久史磨の挨拶で開会。まず冒頭でドナー適合者を待ちながら志半ばで亡くなられた患者さん、さらには移植を受けたものの亡くなられた患者さんのご冥福を祈り、参加者全員で一分間の黙とうが捧げられました。

来賓の皆様からのご挨拶につづき、日本骨髓バンク10周年のあゆみをスライドを使って解説。特に移植件数が伸びれば伸びるほど財政状況がひっ迫する財団の財政構造については、骨髓バンク事業への医療保険の適用などが急務の課題であることが報告されました。

第二部は「10周年記念のつどい」として、移植をして元気になられた患者さん、ドナー経験者へのアンケートやエピソードの紹介があり、まさに骨髓バンクに関わる皆さんが「つどい」の場としてのプログラムを用意。

大会の最後には「事業開始の原点に立ち戻り、『1人でも多くの患者さんに生きる希望を贈る』ことができるよう、全力で努力していくことを『10年目の約束』として、ここに誓います」という骨髓バンク10周年を記念したアピールが読みあげられ、満場一致で採択されました。

「骨髓バンクは10周年を迎えることができました。ドナー登録いただいた述べ18万人の方々、骨髓提供された3700人の方々の善意あふれる行動は、多くの患者さんに希望を与え、そして命を救いました。いまや骨髓バンクは、日本の医療システムとして根付き、社会に対しても大きな感動を広げています。こうした成果は、ドナー登録者、ボランティア、医療関係者、日本赤十字社、国、地方行政をはじめ、国民の皆さまの温かなご支援の賜物です。心から感謝いたします。

10年目を迎えても、いまだに骨髓移植を希望する患者さんの半数は移植が受けられません。また、成し遂げなければならないことが、たくさんあります。ドナー登録者30万人の目標を一日も早く達成すること。病状が悪化する前に移植できるよう迅速なコーディネートを実現すること。一層の国際協力に努めること。そして、事業の基本であるドナーの安全確保について、さらなる充実を図ること。これらの仮題を実現するためには、広く社会の皆さまからの後支店をいただくことが必要です。一方、脆弱な財政基盤を固めるためには、骨髓液への医療保険適用がなされることも不可欠です。

・・・理想にはいまだ遠く、厳しい環境にあります。しかし、私たちは10周年にあたり、事業開始の原点に立ち戻り、「1人でも多くの患者さんに生きる希望を贈る」ことができるよう、全力で努力していくことを「10年目の約束」として、ここに誓います。患者さん、ドナー登録者、ボランティア、骨髄移植と骨髄バンクに関わる全てのみなさん、もはや、私たちは一人ではありません。共に力をあわせ骨髄バンクの輪をさらに広げ発展させていきましょう。

私たちは、心を新たに骨髄バンク事業の一層の推進に、今後とも全力を尽くす決意を、ここに骨髄バンク10周年記念全国大会の名において宣言します。」

2001年11月25日

骨髄バンク10周年記念全国大会参加者一同